

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 68 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

- 1 日時 2016 年 9 月 2 日（金）13:30～15:50
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者（順不同，敬称略）
 - （出席委員）新堀部会長，高橋副部会長，加藤幹事，上田，大久保，小畑，片岡，川上，久保，熊谷，熊崎，小山，斉藤，坂下，田中，藤田，山本（17 名）
 - （代理委員）大野敬介（国土交通省／伊藤），北山一美（東京工業大学／木倉）（途中から入室），都筑康男（原子力安全推進協会／柳原）（3 名）
 - （欠席委員）白井，中島，深澤（3 名）
 - （委員候補）田村明男（原子力安全推進協会），古谷誠（電気事業連合会）（2 名）
 - （代理常時参加者）井上 亮（原子力規制庁／吉居）（1 名）
 - （説明者）【原子燃料サイクル専門部会】加藤幹事，【LLW 埋設後管理分科会】吉原幹事，【LLW 処分安全評価分科会】山本幹事，【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】都筑幹事，【LLW 放射能評価分科会】北島幹事，【クリアランスレベル検認分科会】沼田元幹事（6 名）
 - （事務局）中越，井関，谷井（3 名）

4 配付資料

- FTC68-0 第 68 回原子燃料サイクル専門部会議事次第（案）
- FTC68-1 第 67 回原子燃料サイクル専門部会議事録（案）
- FTC68-2 人事について
- FTC68-3 “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の管理方法（案 201X” 改定案の公衆審査結果について
- FTC68-4-1 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）” の標準委員会決議投票結果について
- FTC68-4-2 “浅地中処分の安全評価手法：201X（案）” の標準委員会決議投票における意見への対応表
- FTC68-4-3-1 標準委員会決議投票における意見への対応に基づく標準本体の修正案
- FTC68-4-3-2 標準委員会決議投票における意見への対応に基づく標準解説の修正案
- FTC68-5-1 “トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010” の改定要否検討結果についての原子燃料サイクル専門部会決議投票結果について
- FTC68-5-2 “トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010” の改定要否検討結果についての原子燃料サイクル専門部会決議投票結果における意見への対応表

- FTC68-6 標準英訳の優先度調査結果について
FTC68-7 用語辞典への標準委員会コメントへの対応に関する意見募集結果について
FTC68-8 L1 放射能濃度評価標準の改定計画の趣意書
FTC68-9 クリアランスの判断方法：2005（AESJ-SC-F005：2005）の正誤表（訂正案）
FTC68-9 添付クリアランスの判断方法：2005（AESJ-SC-F005：2005）の正誤表（訂正前）
FTC68-10 分科会活動状況

参考資料

- FTC68-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
FTC67-参考 1 修正原子燃料サイクル専門部会委員名簿
FTC68-参考 2 標準委員会の活動状況

説明資料

- FTC68-説明-1 原子力学会の行動指針
FTC68-説明-2 倫理規程（行動の手引）
FTC68-説明-3 標準委員会活動基本方針
FTC68-説明-4 行動指針と倫理規程について（OHP）

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員 23 名中、代理委員を含め 19 名の出席があり、成立に必要な委員数（16 名以上）を満足している旨報告された。

（1）前回議事録の確認（FTC68-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

（2）人事について（FTC68-2）

配付資料 FTC68-2 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があった。

【原子燃料サイクル専門部会】

1) 委員退任の確認

仙波 毅（原子力安全推進協会）

平井 輝幸（電気事業連合会）

2) 委員選任の決議

田村 明男（原子力安全推進協会）

古谷 誠（電気事業連合会）

3) 委員再任の決議

柳原 敏（福井大学）

委員の退任が確認され、審議の結果、委員の選任等が決議された。

【分科会】

1) 委員退任の確認

ウラン・TRU取扱施設クリアランスレベル検認分科会

藤原 昇（三菱原子燃料）

杉浦 紳之（近畿大学）

安念 外典（原子力研究バックエンド推進センター）

LLW放射能評価分科会

七田 直樹（東京電力）

本山 光志（日揮）

宿谷 弘行（テプコシステムズ）

市毛 秀明（日本原子力発電）

渡邊 将人（中部電力）

千田 太詩（元電力中央研究所，現東北大学）

大塚 伊知郎（原子力安全基盤機構）

森本 隆夫（日本分析センター）

福村 信男（原子力研究バックエンド推進センター）

2) 委員選任承認の決議

LLW放射能評価分科会

新津 茂彦（東京電力ホールディングス）

尾崎 弘和（日揮）

松居 祐介（テプコシステムズ）

田辺 秀憲（日本原子力発電）

池戸 康樹（中部電力）

佐々木 道也（電力中央研究所）

伴場 滋（日本分析センター）

泉田 龍男（原子力研究バックエンド推進センター）

ウラン・TRU取扱施設クリアランスレベル検認分科会

鈴木 啓二（グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン）

3) 新幹事の確認

ウラン・TRU取扱施設クリアランスレベル検認分科会

鈴木 啓二（グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン）

4) 常時参加者登録解除の確認

リサイクル燃料貯蔵分科会

石川 竜也（リサイクル燃料貯蔵）

LLW放射能評価分科会

原 茂樹（原子力環境整備促進・資金管理センター）

石川 智之（伊藤忠テクノソリューションズ）

遠藤 保美（日本原子力技術協会）

大間 知行（日本原燃）
金子 悟（東京電力）
小林 香奈子（東電環境）
杉山 崇（中部電力）
武部 慎一（日本原子力研究開発機構）
田中 靖人（日揮）
能浦 毅（神戸製鋼所）
花畑 満典（関電パワーテック）
松居 祐介（テプコシステムズ）

LLW 廃棄体等製作・管理分科会

大塚 伊知郎（原子力規制庁）

5) 常時参加者登録承認の確認

リサイクル燃料貯蔵分科会

工藤 貴志（リサイクル燃料貯蔵）

中林 健一（リサイクル燃料貯蔵）

LLW 放射能評価分科会

井上 亮（原子力規制庁）

田中 正人（原子力環境整備促進・資金管理センター）

林 隆康（伊藤忠テクノソリューションズ）

都筑 康男（原子力安全推進協会）

漆戸 崇智（日本原燃）

柏木 誠（日揮）

西尾 隆志（神戸製鋼所）

中野 正明（富士電機）

副島 吾郎（日本原子力研究開発機構）

LLW 廃棄体等製作・管理分科会

井上 亮（原子力規制庁）

委員退任等を確認され、審議の結果、委員選任の承認が決議された。

(3) 【説明事項】

“原子力学会で定めた倫理規程と行動の手引に関する周知について”（FTC68-説明-1, FTC67-説明-2, FTC68-説明-3, FTC68-説明-4）

原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事から FTC68-説明-1, FTC68-説明-2, FTC68-説明-3, FTC68-説明-4 に基づいて、以下について説明があった。

(1) 原子力学会の行動指針+倫理規程（行動の手引）

(2) 標準委員会活動基本方針

(4) 【報告】 “低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の

管理方法（案）：201X”改定案の公衆審査結果について（FTC68-3）

LLW埋設後管理分科会の吉原幹事からFTC68-3に基づいて，“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る覆土の施工方法及び施設の管理方法（案）：201X”改定案は公衆審査で意見がなかったことが報告された。

（５）【報告・審議】“浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”の標準委員会決議投票結果について（FTC68-4-1，FTC68-4-2，FTC68-4-3-1，FTC68-4-3-2）

事務局からFTC68-4-1に基づいて，“浅地中処分の安全評価手法：201X（案）”は標準委員会決議投票で可決されたことが報告された。引き続きLLW処分安全評価分科会の山本幹事からFTC68-4-2，FTC68-4-3-1，FTC68-4-3-2に基づいて，標準委員会決議投票で受付けた意見への対応案について報告があった。審議の結果，対応案は編集上の修正であること及び対応案を標準委員会で報告することが決議された。

質疑等は以下の通り。

- ・対応表で“評価対象期間”を“評価の対象となる期間”と修正した理由を付記すること。

→ 拝承し，“トレンチ処分においては，超長期の変動を考慮しなくてもいいという文脈の文書であるので，評価する必要がある期間という意味合いで“評価の対象となる期間”とした。”の説明を付記する。

- ・8.1 操業中の安全評価の文末で，“～，附属書 E の方法によって評価できる。”に対して，“評価する。”に修正すべきとの意見に対して，回答は拝承になっているが，現行のままとするなら，対応表の“拝承”を“現行のまま”に修正すること。

→ 拝承。なお，現行のままとする理由として，“他の方法を排除するものではないから断定的表現を避けたので現行のままとした”ことを付記する。

- ・“地質環境”の用語の定義で，末尾の“～環境における特性とその時間的進展”という結びはしっくりしないという意見に対して，これは OECD/NEA の文献引用であり，現行のままとしたいとの対応案であるが，対応案はよいとして，“時間的進展”は，FEP の言葉の定義に合わせて“時間的な進展”に修正のこと。

A：拝承。以下のように修正する。

地質環境：処分場設置前の状況及び処分場の存在とその他の長期的変化による変動を含む，水文地質学的・特性 (Feature) とその時間的な進展 (Process)。

（６）【報告・審議】“トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010”の改定要否検討結果についての原子燃料サイクル専門部会決議投票結果について（FTC68-5-1，FTC68-5-2）

事務局からFTC68-5-1に基づいて，“トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査の方法：2010”の改定要否検討結果（改定不要）は原子燃料サイクル専門部会決議投票で可決されたことが報告された。引き続きLLW廃棄体等製作・管理分科会の都筑幹事からFTC68-5-2に基づいて，決議投票で受付けた意見への対応案につい

て報告があった。審議の結果、対応案を標準委員会で報告することが決議された。

(7) 【報告】標準英訳の優先度調査について (FTC68-6)

原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事からFTC58-6に基づいて、標準英訳の優先度調査について報告があった。

(8) 【報告】用語辞典への標準委員会コメントへの対応に関する意見募集について (FTC68-7)

原子燃料サイクル専門部会の加藤幹事からFTC58-7に基づいて、用語辞典への標準委員会コメントへの対応に関する意見募集について報告があった。

(9) 【報告】L1放射能濃度評価標準の改定計画について (FTC68-8)

LLW放射能評価分科会の北島幹事からFTC58-8に基づいて、L1放射能濃度評価標準の改定計画について報告があった。

質疑等は以下の通り。

Q. ISO 国際標準と L1 放射能濃度評価標準との違いは何か？

A. L1 放射能濃度評価標準をベースに ISO 国際標準を策定したが、国際標準化に当たって要求事項が追加されたため、これらを L1 放射能濃度評価標準に取り込むこととしたものである。

Q. 微量元素成分の濃度分布の設定方法とはどのような方法か？

A. 天然の土壌等の微量成分の濃度分布をベースにして、構成材料中の微量元素成分の濃度分布を設定するものである。

(10) 【報告・審議】“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)”の正誤表の訂正について (FTC68-9, FTC68-9 添付)

事務局から FTC68-9, FTC68-9 添付に基づいて、“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)”の正誤表の訂正案について報告があった。審議の結果、正誤表の訂正案を標準委員会で報告することが決議された。

6 その他

・事務局から FTC67-参考 1 修正に基づいて、白井委員の業種について報告があった。審議の結果、白井委員の業種は電力事業等になった。

・次回第 69 回原子燃料サイクル専門部会は、11 月 30 日 (水) 10:30 から開催することとなった。

以上